

仕事楽しい人 F i l e . 5 6 : 廣澤修司さん (市議会議員)



◆主夫が市議会議員になるきっかけは？

今回ご紹介する56番目の仕事楽しい人は、
千葉県白井市で議員を務めている廣澤修司さんです。

廣澤さんは、今年初当選した、新任の市議会議員です。
市議会議員になる前の廣澤さんの仕事は、“主夫”。

周囲の知人から推されての立候補だったそうで、“主夫”の廣澤さんが、どのような活動をしてこられて議員の道に導かれたのか、ご案内しましょう。

廣澤さんの名刺に記載されているプロフィールには、

- ・白井市青少年相談員
- ・白井市総合計画審議会委員
- ・白井市南山小学校PTA会長
- ・白井市学校給食共同調理場運営委員会委員
- ・白井市スポーツ推進委員
- ・白井市社会教育委員
- ・白井市青少年問題協議会委員
- ・白井市子ども・子育て会議会長
- ・しろいチャレンジド・スポーツクラブ指導員

などなど、白井市に関わる各種組織の委員として汗をかいてきた数多くの足跡が謳われています。

廣澤さんが、このような活動をするきっかけは、子どもの小学校入学。

これを機会に廣澤さんは時間の許す限り、PTA活動に協力しました。

ある時に、小学校の落ち葉拾いをしていると、教頭先生から、

「廣澤さん、いつもお手伝いしていただき、ありがとうございます。ところで、今日はお仕事お休みなんですか？」

と声をかけられました。

廣澤さんがごく自然に、

「いえいえ、私は主夫ですので、時間はある程度融通が・・・」

と口走ると、教頭先生が、間髪入れずに、

「〇〇さ～ん！」と大きな声で、PTA関係者に声をかけ、

もの凄いスピードで、その方が駆け寄り、

「ありがとうございます」

とお礼を言われ、

「PTA会長を、是非、お引き受けください」

と依頼されたのだそうです。

突然の申し入れに廣澤さんも戸惑い、即答はできませんでした。

1週間熟考した後、廣澤さんはPTA会長の任務を引き受ける意志を固めました。

廣澤さんの心を動かしたのは、

「白井市の地域の方々に恩返ししたい」

との強い思いがあったから。

やると決めたなら、それなりの成果を出したい。

であれば、任期も1年ではなく、2年にさせていただくよう申し入れました。

PTAの運営委員会は、70名の委員で構成されています。

1学年3クラスですので、6学年の総クラス数は、18。

1クラス4名ずつの委員が選ばれると、総勢70名の規模になります。

これだけ多くの委員によって学校の各種行事がサポートされているのですが、

構成メンバーのほとんどが、お母さん。

廣澤さんは、お父さんも協力しなければとの思いを強めて精力的に学校に通い、あらゆる会合に出席しました。

各種委員会では、子どもたちの教育に関わることについて、真剣に討議されます。

そんな中で、

- ・子どもたちに一流のスポーツ選手の話聞かせたい。
- ・一流の劇を見せたい。

というような案が出されたことがありました。

依頼する上で使える予算はごくわずか。

著名人をお招きできるような予算額には遠くおよびませんでした。

廣澤さんは、何とかしたいとの一心で、知り合いの知り合い、そのまた知り合いの人脈を懸命に手繰り寄せた結果、

一流のスポーツ選手として、元バレーボールアメリカ代表選手の

ヨーコ・ゼッターランドさんが

演劇分野では、

劇団四季が要請を引き受けてくれました。

ちなみに、劇団四季は、教育委員会が趣旨に賛同してくれて白井市の予算で呼んでくれることになったものです。

廣澤さんの粘り強い行動力の源をお尋ねすると、廣澤さんは、

「白井市の地域の方々に恩返ししたい」との思いが、その全てですと答えました。

この廣澤さんの思いがどこから来ているのか、以下の

“白井市の地域の方々に恩返しをしたいとの強い思いの原点は？”

の章にてご紹介いたします。

◆廣澤さんが大切にしているキーワード

人におおらかにする

人はそれぞれの事情を抱えています。ですので、その瞬間に発せられた言葉尻をとって感情的にならないようにしています。

◆廣澤さんのパワー〇〇

季節の変わり目の早朝の匂い（早朝4時、5時）

季節の変わり目の匂いの変化に触れる。

どの季節も、どんな天気でも朝は清々しいものです。

朝の匂いからエネルギーをいただいています。

◆廣澤さんのコツコツ

筋トレ

学生時代からジムに通い、体を鍛えています。

◆白井市の地域の方々に恩返しをしたいとの強い思いの原点は？

廣澤さんの活動の支えになっている、

「白井市の地域の方々に恩返ししたい」

の思いがどこから来ているのか？

それは、心臓病の難病指定を受けた子どもの命を救おうと、廣澤さんが募金活動を発起したことが始まりでした。

※この経緯につきましては、当月の私のコラム、

No. 92 子どもの命を救うために1億円集めた男

http://www.h-mbo.com/category/specialist/column_hirabori/

に記載していますので、ご参照ください。

廣澤さんは、知人からのSOSから、その方の幼子の命を救いたいと一念発起し、募金活動に立ち上がりました。

廣澤さんは、募金活動の経験がないので、県庁へ連絡。

どうしたらいいのか、役所の担当者に教を請うことからはじめました。

募金活動をするための許可申請の仕方に留まらず、募金を集めるための具体策を聞き出します。

その有力策として記者会見の開催が浮かび話を進めていくと、担当者から、

「ただ単に記者会見を申し入れただけでは、記者は集まらないですよ」と

アドバイスされました。

廣澤さんは、「だったら！」と即断即決し、県会議員の自宅に行って「ピンポン！」

アポなしで、直談判。

偶然にもなのか、運よくなのか、妥当な表現が浮かびませんが、その当日、議員の先生は在宅されていました。

廣澤さんは、募金活動の趣旨を懸命に伝えますが、議員の先生は、

「ところであなたは、何をされている方なのですか？」と怪訝な表情を浮かべながら、

素性の確認をします。(ある意味当然な行為)

廣澤さんは、3歳の時から白井市に移り住み、地元の幼稚園、小学校、中学校卒業の経歴を話しながら、決して怪しい者ではないことを訴えました。

すると、議員の先生は、

「わかりました」と理解を示し、その場でテレビ局に電話をかけ、事の次第を説明し、ニュースに取り上げるようお願いしてくれました。

この出来事からマスコミからの取材が一気に加速し、ラジオやローカルテレビで、難病の子どもを救う募金活動の実際が報道されました。

結果、目標とする募金額の1億円を大幅に上回る、1億7,000万円が1ヶ月強の期間で集まりました。

尊い命を救うべく、日本ではできない心臓の移植手術を受けに、幼子は渡米。

手術は成功しましたが、残念ながら、天に旅立ってしまいました。

私は、廣澤さんからこの体験談を伺い、その行動力に脱帽し驚嘆の念を表明したのですが、廣澤さんは至って冷静で、こう切り出しました。

「平堀さん、募金活動をして、人の本気を知りました」

この話を聞いた私は、

「人の本気って何を言っているんだろう。人ではなくて廣澤さん自身の本気じゃないの」と、頭の中が混乱。

廣澤さんは話を続けます。

「駅頭や街頭に立っての募金活動をしていただいた方々は、総勢170名。

地元の友だちからつながった有志のネットワークでした。

この170名の方々の、ど本気の“眼”での、ど本気の活動。

私は、人の本気の底力を、このみなさんから教えていただいたんです。」

廣澤さんは、自分の本気を上回る大勢の方々の“ど本気の活動”があつての結果だったのだと、それこそ、ど真剣な眼差しで私に力説しました。

そして廣澤さんは、眼を潤ませながら、

「平堀さん、私はこの時に、“白井市の地域の方々に恩返しをしよう”と誓いました。」

と、話を結びました。

毎回掲載している、13歳からのハローワークのホームページに掲載されている職業案内から、今回は政治家を転記しました。下記にある政治家についての解説をご一読いただければ、廣澤さんが、市議会議員（政治家）になる上で必要な条件を十分に満たされていることがわかります。

地域の方々のために汗をかき続ける、廣澤さんは、そんな行動派議員としてこれからも議員活動をされていくのでしょうか。

◆廣澤さんのプロフィール

職業：市議会議員

所属：千葉県白井市議 (<http://www.city.shiroi.chiba.jp/shisei/shigikai/index.html>)

◆政治家とは？

(13歳からのハローワーク公式サイトから抜粋しました)

政治家とはいったいどういう人を指すのだろうか。公職選挙法や政治資金規正法などによると、政治家とは国会議員、地方公共団体の長、地方議会の議員、及びその候補者、となっている。地方公共団体の長は、都道府県の知事、市町村長のこと。地方議会は県や市町村の議会である。基本的には住民の選挙によって選ばれるが、町村長選挙や地方議会選挙などでは、現職に対抗する者がいなかったり、候補者の数が定数を下回ったりするようなこともある。任期は原則4年（参議院議員は6年）、また衆議院議員は25歳以上、参議院議員は30歳以上、のように被選挙権が定められている。

政治というのは日頃もっともよく目にする言葉だが、それが正確に何を意味するのか、わかりにくい。政治家とは人びとの暮らしを守り、より良くするために活動する人、なのだろうか。しかし、NPOやNGOや宗教家や公務員など、人びとの暮らしを守り、より良くするために活動する人はほかにも大勢いる。そもそも政治とは何か、と考えるとこれもきわめてわかりにくい。ひょっとしたら政治家ほどわかりにくい職業はこの世にないかもしれない。この本は職業を定義するためのものではないので結論を先にいうが、世の13歳はこんなにわかりにくい職業を目指すべきではない。

政治家は、さまざまな集団・グループの利害の調整のための方法を考え、実行する。それは実はものすごく面倒くさくて、割の合わない仕事である。集団内のすべてのグループやすべての人が満足する政策などあるわけがないので、政治家は誰かに恨まれる。だから、シーザーの時代から現代まで、暗殺される人の大半は政治家だ。第二次大戦後、お隣の韓国では、政権交代があると必ず前政権の中枢にいた人たちが暗殺されたり逮捕されたりしてきた。それは彼らが権力の中枢にいたときに誰かの恨みを買ったからだ。日本でも、幕末や戦前には多くの政治家が暗殺された。だが今の日本では、政治家が割の合わない仕事だという意識が少ない。それは、戦後の日本が経済成長を続けてきて、利益の分け前をほとんどすべての国民に分配することができたからだ。生活がどんどんよくなっているときは、どんどん大きくなるパイをみんなで分ければいいわけだから、ほとんどの人は不満を持たない。

不満を持つどころか、逆に、分配される利益を少しでも多くしてもらおうと政治家にごま

をすりながら群がっていくので、戦後の日本では政治家というのは基本的にずっとおいしい職業であり続けた。政治家には不可欠のものなので、権力欲はあってもかまわないし、声が大きいか、面の皮が厚い（神経が太い）とか、面倒見がいいとか、異常に体力があるとか、権謀術数に長けているとか、そういう面があってもいい。だが、将来的には、NPOやNGOなどで国際的に活動してきて、利害調整の困難さと重要性を理解した人がやむにやまれず政治に参加するようになればいいと思う。あるいは企業活動と環境保護の調整に長く深く関わった人とか、企業や銀行を見事に再生させた人とか、地域社会や教育の活性化にたずさわった人とか、そういった分野から政治家が現れるようになるべきだ。

権力欲があって、声が大きく、面の皮が厚く（神経が太い）、面倒見がよく、異常に体力があって、権謀術数にも長けている 13 歳は、最初から政治家を目指すのではなく、NPO や NGO などで、知識とスキルを磨き、体験を積むことを勧めたい。

◆市議会議員に求められる能力

地域愛：地域の方々のために全人全霊を打ち込む覚悟

発案力：地域をよりよくしていくためのアイデア創造

行動力：発案したアイデアの実現のために活動する力

調整力：多種多様な利害関係者の間を取り持つ能力

成果創出力：最終的には成果に導く力